

開講科目名	日本語聴解・会話初級B			
担当教員	前田 真奈美		開講区分	単位数
			第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG010	曜日・時限	水2	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：初級レベルの聴解・会話能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：
1. 自分のことについて聴き取れる。
2. 自分の身の回りのことについて聴き取れる。
3. 自分のことについて話せる。
4. 自分の身の回りのことについて話せる。

授業の概要と計画

授業のスケジュールは以下の通りです。
第1回 わたしの家族
第2回 わたしのしたいこと／決まり
第3回 忙しい毎日と大変な仕事
第4回 気をつけること
第5回 わたしの楽しみ／おすすめ
第6回 復習、期末試験（筆記）
第7回 期末試験（会話）
第8回 課題学習

週1回 全8週
1科目15時間

内容は変更されることがあります。
詳細は初回の授業で説明します。

成績評価方法

成績評価方法：
授業での活動、試験で評価します。

成績評価基準

成績評価基準：
1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）40%
2. 期末試験 60%
※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件です。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とします。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：
この授業は初級レベルの授業です。第1クォータにおいて日本語聴解・会話初級を履修しているか、J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)の総合結果が60-120点であることが望ましい。

関連科目情報：
「日本語聴解・会話初級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：
その日の授業内容について、復習として宿題を出すことがあります。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

授業で習った表現を、日常生活でも積極的に使用してください。

今年度の工夫

教科書

プリントを配布します。

参考書・参考資料等

NEJ: A New Approach to Elementary Japanese [vol.1] テーマで学ぶ基礎日本語 / 西口光一 : くろしお出版 , 2012 , ISBN:9784874245507

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、初級、聴解、会話

開講科目名	日本語読解・作文初級B			
担当教員	前田 真奈美			開講区分
				第2クォーター
ナンバリングコード	R1IG010	曜日・時限	水1	単位数 0.0単位
授業のテーマ				
授業のテーマ：初級レベルの読解・作文能力の育成を図る。				
授業の到達目標				
授業の到達目標： 1.身近な事柄について短い文章を読んだり、書いたりすることができる。 2.身近な事柄について読んだり書いたりするために必要な文型、語彙、表現、表記法等を理解し運用することができる。 3.論理的で読みやすい構成を作って書くことができる。 4.様々なタイプの文章表現があることを理解し、書くことができる。 5.読み手を意識したわかりやすい文章を書くことができる。				
授業の概要と計画				
授業のスケジュールは以下の通りです。 第1回 わたしの家族 第2回 わたしのしたいこと 第3回 忙しい毎日と大変な仕事 第4回 気をつけること 第5回 わたしの楽しみ／おすすめ 第6回 復習 第7回 試験 第8回 課題学習 週1回 全8週 1科目15時間 内容は変更されることがあります。 詳細は初回の授業で説明します。				
成績評価方法				
成績評価方法： 授業での活動、毎回の提出物、試験で評価します。				
成績評価基準				
成績評価基準： 1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）20% 2. 提出物 40% 3. 期末試験 40% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件です。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とします。				
履修上の注意（関連科目情報）				
対象者： この授業は初級レベルの授業です。第1クォータにおいて日本語読解・作文初級を履修しているか、J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)の総合結果が60-120点であることが望ましい。 関連科目情報： 「日本語読解・作文初級A」を事前に履修することが望ましい。				
事前・事後学修				
準備学習・復習： 次週のテーマの読解教材・単語リストを配布するので、受講生はそれを読んでください。授業内で書き終わらなかった作文は宿題とします。				
オフィスアワー・連絡先				

学生へのメッセージ

教員の添削を受けた作文は読み返し、わからないことは質問したり調べたりし、作文力向上に努めてください。

今年度の工夫

教科書

プリントを配布します。

参考書・参考資料等

NEJ: A New Approach to Elementary Japanese [vol.1] テーマで学ぶ基礎日本語 / 西口光一 : くろしお出版, 2012, ISBN:9784874245507

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、作文、初級

開講科目名	日本語漢字・語彙初級B			
担当教員	村井 卷子			開講区分
				第2クォーター
ナンバリングコード	R1IG010	曜日・時限	金3	単位数 0.0単位
時間割コード				
授業のテーマ				
初級レベルの漢字150字程度とそれに関連する語彙を習得する。				
授業の到達目標				
1. 日本語の表記法の基本を理解する。 2. 初級レベルの漢字150字程度の読み書きができるようになる。 3. 合計300字程度の漢字と語彙を適切に使うことができる。				
授業の概要と計画				
ひらがな・カタカナの学習後、漢字を学習。 文中での漢字の運用が初級レベルから作成できるよう目標を定めている。例文を参照し毎回既習漢字を用い短文を1文以上作成する。				
授業のスケジュールは以下の通り。 第1回 第11課・第12課 第2回 第13課・第14課 第3回 第15課・第16課 第4回 第17課・第18課 第5回 第19課・第20課 第6回 第21課・第22課 第7回 第11課 - 第22課 のテスト 第8回 課題学習 週1回 全8週 1科目15時間				
成績評価方法				
授業での活動、出席、宿題、毎週テスト、期末試験で評価する。				
成績評価基準				
1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）および 出席 10% 2. 宿題 20% 3. 毎週テスト 20% 4. 期末試験 50% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。				
履修上の注意（関連科目情報）				
対象者： 本授業は初級レベルの授業である。日本語漢字・語彙初級Aを履修しているか、J-CAT(オンラインプレースメントテスト)の総合結果が 0-120点であることが望ましい。 関連科目情報： 「日本語漢字・語彙初級A」を事前に履修することが望ましい。				
事前・事後学修				
各回で習った漢字について、次の回までに練習し、覚えておくこと。				

オフィスアワー・連絡先

mura-m41[AT]mediawars.ne.jp

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

漢字を文の中で運用していくのが目的です。漢字を楽しみましょう。

今年度の工夫

毎回 既習漢字を使って1文（1文以上）を学習者が作成する。

教科書

『例文で学ぶ漢字・語彙1』（配布）

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、漢字、語彙、初級

開講科目名	日本語初中級 IB			
担当教員	川上 尚恵		開講区分	単位数
			第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG041	曜日・時限	月2	時間割コード

授業のテーマ

初中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける

授業の到達目標

- ①初中級レベルの文型・語彙・基本的な日常会話の表現を使い、物事を詳しく説明したり、話者の気持ちを伝えたりして、コミュニケーションすることができる。
 - ②日本語の基礎的な構造を理解し、運用することができる。
 - ③基本的な日常会話を流暢に話すことができる。
- ※漢字学習は含まない。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語初級Ⅱ』の1課を2日で学習する。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：39-40課
- 2週目：復習、41-42課
- 3週目：42-44課
- 4週目：44-45課、復習
- 5週目：46-48課
- 6週目：48-50課
- 7週目：復習、テスト
- 8週目：課題学習

週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

授業活動及び授業参加度、最終試験

成績評価基準

1. 授業活動及び授業参加度 40%
 2. 課題 20%
 3. 最終試験40%
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語初中級IA-IVA」を終了した、あるいはJ-CATの点数が121-170点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語初中級ⅠB-IVB」を併せて受講することが望ましい。「日本語初中級ⅠB-IVB」のうち、受講できない授業がある場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語初中級ⅠA-IVA」を事前に受講することが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 課の終了時には、毎回宿題（課題）をして提出すること。クラスを休んだ場合でも、授業スケジュールに従って、所定の宿題をして提出すること。宿題については授業内で説明する。
3. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。復習のための素材は、授業内で紹介する。

オフィスアワー・連絡先

原則、クラス内で質問すること。その他、個別に相談が必要な場合は、主任の川上に連絡すること。
 オフィスアワーは水曜日9:00-10:30（国際教育総合センター3階川上研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
 メールアドレス：Kawakami [AT]sapphire.kobe-u.ac.jp
 ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

本講義の履修者の国籍、言語、日本滞在歴、日本語学習の目的はさまざまです。多様な人々と一緒に、日本語の基礎を学習しましょう。

今年度の工夫

復習する機会やコミュニケーション的な練習を多く取り入れ、学習項目の理解・定着と応用能力の向上を図る。

教科書

- 1) 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』（スリーエーネットワーク、ISBN：978-4-88319-603-6、2500円）
- 2) 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク、2160円）
同書に関しては、英語版をはじめ12カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:978-4-88319-603-6

みんなの日本語初級Ⅱ第2版翻訳・文法解説 / : スリーエーネットワーク , , ISBN: 978-4883196647 Eng

参考書・参考資料等

『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』には、以下の関連テキストが出版されています。

- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版標準問題集』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版書いて覚える文型練習帳』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版漢字練習帳（ベトナム版及び英語版）』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版初級で読めるトピック25』

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
日本語と英語

キーワード

日本語、初中級

開講科目名	日本語初中級 IIB			
担当教員	伊藤 智博	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG042	曜日・時限	火2	時間割コード

授業のテーマ

初中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける

授業の到達目標

- ①初中級レベルの文型・語彙・基本的な日常会話の表現を使い、物事を詳しく説明したり、話者の気持ちを伝えたりして、コミュニケーションすることができる。
 - ②日本語の基礎的な構造を理解し、運用することができる。
 - ③基本的な日常会話を流暢に話することができる。
- ※漢字学習は含まない。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語初級Ⅱ』の1課を2日で学習する。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：39課、40課
- 2週目：復習、41課、42課
- 3週目：43課、44課
- 4週目：45課、復習
- 5週目：46課、47課
- 6週目：48課、49課
- 7週目：50課、復習、テスト
- 8週目：課題学習

週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

授業活動及び授業参加度、最終試験

成績評価基準

1. 試験60%
 2. 授業活動及び授業参加度40%
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語初中級IA-IVA」を終了した、あるいはJ-CATの点数が121-170点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語初中級ⅠB-IVB」を併せて受講することが望ましい。「日本語初中級ⅠB-IVB」のうち、受講できない授業がある場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語初中級ⅠA-IVA」を事前に受講することが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。復習のための素材は、授業内で紹介する。

オフィスアワー・連絡先

原則、クラス内で質問すること。その他、個別に相談が必要な場合は、主任の川上に連絡すること。
 オフィスアワーは水曜日10：30-12：00（留学生センター3階川上研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
 メールアドレス：Kawakami [AT]sapphire.kobe-u.ac.jp
 ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

本講義の履修者の国籍、言語、日本滞在歴、日本語学習の目的はさまざまです。多様な人々と一緒に、日本語の基礎を学習しましょう。

今年度の工夫

復習を多く取り入れ、学習項目の理解・定着と応用能力の向上を図る。

教科書

- 1) 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』（スリーエーネットワーク、ISBN：978-4-88319-603-6、2500円）
- 2) 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク、2160円）
同書に関しては、英語版をはじめ12カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883196036

みんなの日本語初級Ⅱ 第2版翻訳・文法解説 英語版 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883196647

参考書・参考資料等

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』には、以下の関連テキストが出版されています。

- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版標準問題集』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版書いて覚える文型練習帳』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版漢字練習帳』

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

日本語と英語

キーワード

日本語、初中級

開講科目名	日本語初中級 IIIB			
担当教員	川崎 信恵	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG043	曜日・時限	木2	時間割コード

授業のテーマ

初中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける

授業の到達目標

- ①初中級レベルの文型・語彙・基本的な日常会話の表現を使い、物事を詳しく説明したり、話者の気持ちを伝えたりして、コミュニケーションすることができる。
 - ②日本語の基礎的な構造を理解し、運用することができる。
 - ③基本的な日常会話を流暢に話することができる。
- ※漢字学習は含まない。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語初級Ⅱ』の1課を2日で学習する。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：39-40課
- 2週目：復習、41-42課
- 3週目：42-44課
- 4週目：44-45課、復習
- 5週目：46-48課
- 6週目：48-50課
- 7週目：復習、テスト
- 8週目：課題学習

週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

授業活動及び授業参加度、最終試験

成績評価基準

1. 授業活動及び授業参加度 40%
 2. 課題 20%
 3. 最終試験40%
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語初中級IA-IVA」を終了した、あるいはJ-CATの点数が121-170点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語初中級ⅠB-IVB」を併せて受講することが望ましい。「日本語初中級ⅠB-IVB」のうち、受講できない授業がある場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語初中級ⅠA-IVA」を事前に受講することが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 課の終了時には、毎回宿題（課題）をして提出すること。クラスを休んだ場合でも、授業スケジュールに従って、所定の宿題をして提出すること。宿題については授業内で説明する。
3. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。復習のための素材は、授業内で紹介する。

オフィスアワー・連絡先

原則、クラス内で質問すること。その他、個別に相談が必要な場合は、主任の川上に連絡すること。
 オフィスアワーは水曜日9:00-10:30（国際教育総合センター3階川上研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
 メールアドレス：Kawakami [AT]sapphire.kobe-u.ac.jp
 ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

本講義の履修者の国籍、言語、日本滞在歴、日本語学習の目的はさまざまです。多様な人々と一緒に、日本語の基礎を学習しましょう。

今年度の工夫

復習する機会やコミュニケーション的な練習を多く取り入れ、学習項目の理解・定着と応用能力の向上を図る。

教科書

- 1) 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』（スリーエーネットワーク、ISBN：978-4-88319-603-6、2500円）
- 2) 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク、2160円）
同書に関しては、英語版をはじめ12カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:978-4-88319-603-6

みんなの日本語初級Ⅱ第2版翻訳・文法解説 / : スリーエーネットワーク , , ISBN: 978-4883196647 Eng

参考書・参考資料等

『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』には、以下の関連テキストが出版されています。

- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版標準問題集』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版書いて覚える文型練習帳』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版漢字練習帳（ベトナム版及び英語版）』
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版初級で読めるトピック25』

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
日本語と英語

キーワード

日本語、初中級

開講科目名	日本語初中級 IVB			
担当教員	村井 卷子	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG044	曜日・時限	金2	時間割コード

授業のテーマ

初中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける

授業の到達目標

- ①初中級レベルの文型・語彙・基本的な日常会話の表現を使い、物事を詳しく説明したり、話者の気持ちを伝えたりして、コミュニケーションすることができる。
 - ②日本語の基礎的な構造を理解し、運用することができる。
 - ③基本的な日常会話を流暢に話すことができる。
- ※漢字学習は含まない。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語初級Ⅱ』の1課を2日で学習する。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：39-40課
- 2週目：復習、41-42課
- 3週目：42-44課
- 4週目：44-45課、復習
- 5週目：46-48課
- 6週目：48-50課
- 7週目：復習、テスト
- 8週目：課題学習

週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

授業活動及び授業参加度、最終試験

成績評価基準

1. 授業活動及び授業参加度 40%
 2. 課題 20%
 3. 最終試験 40%
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語初中級IA-IVA」を終了した、あるいはJ-CATの点数が121-170点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語初中級ⅠB-IVB」を併せて受講することが望ましい。「日本語初中級ⅠB-IVB」のうち、受講できない授業がある場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語初中級ⅠA-IVA」を事前に受講することが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 課の終了時には、毎回宿題（課題）をして提出すること。クラスを休んだ場合でも、授業スケジュールに従って、所定の宿題をして提出すること。宿題については授業内で説明する。
3. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。復習のための素材は、授業内で紹介する。

オフィスアワー・連絡先

原則、クラス内で質問すること。その他、個別に相談が必要な場合は、主任の川上に連絡すること。
 オフィスアワーは水曜日9:00-10:30（留学生センター3階川上研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
 メールアドレス：Kawakami [AT]sapphire.kobe-u.ac.jp
 ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

本講義の履修者の国籍、言語、日本滞在歴、日本語学習の目的はさまざまです。多様な人々と一緒に、日本語の基礎を学習しましょう。

今年度の工夫

復習する機会やコミュニケーションな練習を多く取り入れ、学習項目の理解・定着と応用能力の向上を図る。

教科書

- 1) 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』 (スリーエーネットワーク、ISBN : 978-4-88319-603-6、2500円)
- 2) 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版翻訳・文法解説』 (スリーエーネットワーク、2160円)
同書に関しては、英語版をはじめ12カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883196036

みんなの日本語初級Ⅱ 第2版翻訳・文法解説 英語版 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883196647

参考書・参考資料等

- 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』には、以下の関連テキストが出版されています。
- ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版標準問題集』
 - ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版書いて覚える文型練習帳』
 - ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版漢字練習帳 (ベトナム版及び英語版) 』
 - ・ 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版初級で読めるトピック25』

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
日本語と英語

キーワード

日本語、初中級

開講科目名	日本語聴解初中級B			
担当教員	實平 雅夫	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG030	曜日・時限	水1	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：初中級レベルの会話能力の育成を図る。

授業の到達目標

1. 日常生活における基本的な聴解能力を身につける。
2. 状況やコンテキストに応じたスピーチレベルの聴き分けが出来る。
3. 日常生活の身近な事柄について、正しい発音・語彙・文法・表現を聴き取ることが出来る。
4. ある程度、一般的な事柄について聴く能力を向上させる。

授業の概要と計画

本授業では、授業の冒頭、教科書附属のCDを聞いた上で、教科書に出てくる語彙・文法・表現を確認し、音読を行う。教科書の内容を学習した後、ペアワーク、グループワークなどの応用練習を行い、より実践的な聴解能力の向上を図る。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 聴き取った情報を別の言葉に置き換える2
- 第2回 最後に出てくるポイントを聞き逃さない
- 第3回 情報を捨てていく1
- 第4回 情報を捨てていく2
- 第5回 情報を拾っていく1
- 第6回 情報を拾っていく2
- 第7回 試験
- 第8回 課題学習

週1回 全8週

1科目15時間

成績評価方法

授業での活動、試験で評価する。

成績評価基準

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）50%
2. 試験 50%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

本授業は初中級レベルの授業である。日本語聴解初中級Aを履修しているか、J-CAT(オンラインプレースメントテスト)の総合結果が121-170であることが望ましい。

関連科目情報：

- 「日本語会話初中級B」を同時に履修することが望ましい。
- 「日本語聴解初中級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

授業の前に、教科書附属のCDをよく聞き、語彙の意味・読み方・文法を必ず調べてくること。授業終了後は、日常生活の中で、授業で習った表現を積極的に使用し、日本語の聴解能力を向上させることが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

火曜日 12:30-14:00（事前連絡要）

sanehira[AT]port.kobe-u.ac.jp 078-803-5276

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

授業外でも、日本人学生の集まりや、地域のホストファミリープログラムなどに参加し、交流を楽しんで下さい。

今年度の工夫

日本人学生との協働学習の機会を設けます。

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

聴くトレーニング「聴解・聴読解」：日本留学試験対応 / 澁川晶・宮本典以子・坂野加代子：スリーエーネットワーク, 2006, ISBN:4883193713

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、初中級、聴解

開講科目名	日本語会話初中級B			
担当教員	黒田 千晴	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG030	曜日・時限	水2	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：初中級レベルの会話能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 日常生活における基本的な会話能力を身につける。
2. 状況やコンテキストに応じたスピーチレベルの使い分けが出来る。
3. 日常生活の身近な事柄について、正しい発音・語彙・文法・表現で話すことが出来る。
4. 身近な事柄について限られた時間（1-2分）で、まとまりのある話ができる。

授業の概要と計画

本授業では、授業の冒頭、教科書に出てくる語彙・文法・表現を確認した後、ペアワーク、グループワークなどの応用練習を行い、より実践的な会話能力の向上を図る。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 オリエンテーション、 トピック6 結婚①
- 第2回 トピック6 結婚②
- 第3回 トピック7 なやみ相談①
- 第4回 トピック7 なやみ相談②、スピーチ準備
- 第5回 スピーチ
- 第6回 トピック8 旅行中のトラブル
- 第7回 トピック9 仕事をさがす
- 第8回 最終口答試験

週1回全8週

1科目15時

成績評価方法

成績評価方法：

授業での活動、家庭学習課題の完成度、スピーチ、最終口答試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言） 30%
2. 家庭学習課題の完成度 10%
3. スピーチ 20%
4. 最終口頭試験 40%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は初中級レベルの授業である。J-CAT（オンラインの日本語レベルチェックテスト）が121-170点であること。

関連科目情報：

- 「日本語聴解初中級B」を同時に履修することが望ましい。
- 「日本語会話初中級A」を履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業の前に、語彙の意味・読み方・文法を必ず調べてくること。授業終了後は、日常生活の中で、授業で習った表現を積極的に使用し、日本語の会話能力を向上させることが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

木曜日 15:00-16:30（事前連絡要）

kuroda[AT]port.kobe-u.ac.jp 078-803-5296

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

授業外でも、日本人学生の集まりや、地域のホストファミリープログラムなどに参加し、交流を楽しんで下さい。

今年度の工夫

ショートスピーチのトレーニングを導入する。

教科書

まるごと日本のことばと文化初中級A2/B1

まるごと日本のことばと文化＜初中級A2/B1＞（第4刷） / 国際交流基金：三修社，2017，ISBN: 9 7 8

参考書・参考資料等

わかる！話せる！日本語会話 基本文型88 / 水谷信子監修・著：Jリサーチ出版，2014，ISBN:9784863922051

新・にほんご敬語トレーニング / 金子広幸：アスク，2014，ISBN:9784872178562

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、会話、初中級

開講科目名	日本語読解初中級B			
担当教員	朴 鍾祐		開講区分	単位数
			第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG030	曜日・時限	木3	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：初級レベルの読解力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 身近な事柄についての文章を読むことができる。

2. 一般的な事柄について読むために必要な文型、語彙、表現、表記法等を理解することができる。

授業の概要と計画

授業のスケジュールは以下の通り。

第1回 万次郎

第2回 常識

第3回 ロボットといっしょ

第4回 肉を食べると

第5回 お元気ですか

第6回 カレー

第7回 テスト

第8回 課題学習

全 8回（15時間）

成績評価方法

成績評価方法：

小テスト、期末テスト、参加度で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 小テスト 20 %

2. 参加度 10 %

2. 期末試験 70 %

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は初級レベルの授業である。初歩的漢字（100字程度）、語彙（800語）を習得した者を対象とする。

J-CAT（オンラインプレイスメントテスト）の結果が121点ー170点程度の学習者を対象

関連科目情報：

「日本語作文初中級B」を同時に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業で単語リストを配布するので、単語の意味を調べる。次の授業では単語確認テストを行う。

オフィスアワー・連絡先

木曜日10:30-12:00

jwpark{AT}@kobe-u.ac.jp

※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25

みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25 / 牧野昭子、沢田幸子、重川明美、田中よね、水野マリ子 : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883191857

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、読解、初中級

開講科目名	日本語作文初中級B			
担当教員	播磨 涼子	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG030	曜日・時限	火3	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：初中級レベルの作文能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 身近な事柄について短い文章を書くことができる。
2. 身近な事柄を文章で表現するために必要な文型、語彙、表現、表記法等を理解し運用することができる。
3. 論理的で読みやすい構成を作って書くことができる。
4. 様々なタイプの文章表現があることを理解し、書くことができる。
5. 読み手を意識したわかりやすい文章を書くことができる。

授業の概要と計画

本授業では、日本語読解初中級Aの内容と連動し、読解のテーマと同じテーマで授業内で作文を書く。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 常識
- 第2回 ロボット
- 第3回 環境問題
- 第4回 手紙
- 第5回 料理
- 第6回 緊急
- 第7回 期末試験
- 第8回 課題学習

週1回 全8週
1科目15時間

成績評価方法

成績評価方法：

授業での活動、毎回の提出物、試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）20%
2. 提出物 50%
3. 期末試験 30%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は初中級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)の結果が121点-170点程度の学習者を対象とする。

関連科目情報：

- 「日本語読解初中級B」を同時に履修することが望ましい。
- 「日本語作文初中級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業の前に次週のテーマの読解教材・単語リストを配布するので、受講生はそれを読んできてくこと。授業内で書き終わらなかった作文は宿題とする。教師の添削を受けた作文は読み返し、わからないことは質問したり調べたりし、作文力向上に努めることが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

授業で学習したことを使って、いろいろな機会に文や手紙を書いてみましょう。

今年度の工夫

ピア学習を取り入れる。

教科書

牧野昭子・澤田幸子・重川明美・田中よね・水野マリ子2001『みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク、978-4883191857、¥1,512）

みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25 / 牧野昭子・澤田幸子・重川明美・田中よね・水野マリ子：スリーエーネットワーク，，ISBN:9784883191857

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語と英語

キーワード

日本語、作文、初中級

開講科目名	日本語漢字・語彙初中級B			
担当教員	岡田 亜矢子	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG030	曜日・時限	金3	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：初中級レベルの漢字111字とそれに関連する語彙を習得する。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 初中級レベルの漢字111字の読み書きができるようになる。
2. 合計500字程度の漢字と語彙を適切に使うことができる。

授業の概要と計画

本授業では、授業の冒頭に前週に学習した漢字のテストを行う。その後、各課の漢字を使った語彙や使用法を学習する。毎回宿題があるので、必ず提出すること。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 第13課（銀資品個価産期々報告）
第14課（心感情悲泣笑頭覚忘考）
- 第2回 第15課（伝代呼焼曲脱別集並喜驚）
第16課（細太重軽狭弱眠苦簡単）
- 第3回 第17課（空港飛階建設完成費放）
第18課（位置横向原平野風両橋）
- 第4回 第19課（老族配術退効民訪顔齒）
第20課（卒論実調必要類得失礼）
- 第5回 第21課（増加減変移続過進以美）
第22課（比較反対賛共直表現初）
- 第6回 第23課（全最無非第的性法制課）
- 第7回 テスト（第13課～23課） 応用練習
- 第8回 課題学習

週1回 全8週

1科目15時間

成績評価方法

成績評価方法：

出席、授業での活動（授業への参加）、宿題の提出、試験（小テスト・期末テスト）で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）、出席、宿題 20%
2. 小テスト 20%
3. 期末試験（2回） 60%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

※3回遅刻で1回欠席とみなす。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は初中級レベルの授業である。日本語漢字・語彙初中級Aを履修しているか、J-CAT(オンラインプレースメントテスト)の総合結果が121-171点であることが望ましい。

関連科目情報：

「日本語漢字・語彙初中級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

各回で習った漢字について、次の回までに練習し、覚えておくこと。毎回小テストがあります。また、宿題もありますので、必ず提出すること。

オフィスアワー・連絡先

質問がある人は授業の前後にきてください。

学生へのメッセージ

毎週小テストと宿題がありますので、授業以外での自習が必須となります。
授業中は授業での活動に参加してください。

今年度の工夫

日常生活で使える漢字や語彙を多く学習する。

教科書

『例文で学ぶ漢字・語彙2』（配布）

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、初中級、漢字、語彙

開講科目名	日本文化演習 IB			
担当教員	實平 雅夫	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG010	曜日・時限	月3	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：初級から初中級レベルの日本文化を総合的に身につける。

授業の到達目標

1. 日常的な内容の、日本文化を日本語で理解できる。
 2. 身近な日本文化について日本語で聞けて、話せる。

授業の概要と計画

入門レベルの学習者対象の初歩日本文化日本事情
 授業のスケジュールは以下の通り。

 第1回 ガイダンス、産業
 第2回 教育1
 第3回 教育2
 第4回 私の国と日本1
 第5回 私の国と日本2
 第6回 私の国と日本3
 第7回 試験及びフィードバック
 第8回 課題学習

 週1回 全8週
 1科目15時間

成績評価方法

試験、参加度で評価する。

成績評価基準

試験 80%
 参加度 20%
 ※出席率70%以上で評価の対象とする。

履修上の注意（関連科目情報）

・本授業は初中級レベルの授業である。日本語を初めて学習する人、または、J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)の総合結果が120以下であること。

事前・事後学修

各課の語彙の予習が求められる（プリントを配布）。また、復習として、課末問題シートが課される。

オフィスアワー・連絡先

火曜日 12:30-14:00（事前連絡要）
 sanehira[AT]port.kobe-u.ac.jp 078-803-5276
 ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

授業外でも、日本人学生の集まりや、地域のホストファミリープログラムなどに参加し、交流を楽しんで下さい。

今年度の工夫

日本人学生との協働学習の機会を設けます。

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

イラスト日本まるごと事典 / インターナショナルインターンシッププログラムス : 講談社インターナショナル , ISBN:9784770041142

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本文化、初中級、日本語

開講科目名	日本語中級 IB			
担当教員	岡田 亜矢子	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG061	曜日・時限	月2	時間割コード

授業のテーマ

中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。

授業の到達目標

中級前半レベルの語彙、文型、表現を用いて、相手や場面に応じた文体で会話することができる。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅰ』の1課を4日で学習する。このクラス（日本語中級Ⅰ、月曜日）は、主として「話す・聞く」を扱う。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：7課
- 2週目：8課
- 3週目：9課
- 4週目：10課
- 5週目：11課
- 6週目：12課
- 7週目：最終試験
- 8週目：課題学習

全8回（15時間）

*日本語中級ⅠB-ⅣB：週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

最終試験、小テスト・課題、授業活動及び授業参加度

成績評価基準

1. 最終試験 40%
2. 小テスト・課題 40%
3. 授業活動及び授業参加度 20%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語中級ⅠA-ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点171点-220点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語中級ⅡB-ⅣB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中級ⅡB-ⅣB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語中級ⅠA-ⅣA」に続けて受講することが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の朴秀娟に連絡すること。
 オフィスアワー：木曜日15時-16時半（国際教育総合センター3階 朴秀娟研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
 メールアドレス：sympark [AT]aquamarine.kobe-u.ac.jp
 ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先を入力。

学生へのメッセージ

会話は実際に相手と話すことで上手になっていきます。学習した日本語を口頭で使ってみること、そして日本語音声を聴く機会をできるだけ多く持つようにしましょう。

今年度の工夫

--

教科書

1)『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク）

2)『みんなの日本語中級Ⅰ 翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク）

同書に関しては、英語版をはじめ8カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅰ 本冊』 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883194681

『みんなの日本語 中級Ⅰ 翻訳・文法解説書』 / (※英語版) : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883194926

参考書・参考資料等

--

授業における使用言語

日本語

--

キーワード

日本語、中級

--

開講科目名	日本語中級 IIB			
担当教員	内藤 裕美	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG062	曜日・時限	火2	時間割コード

授業のテーマ

中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。

授業の到達目標

中級前半レベルの語彙、文型、表現が用いられた文章を読んだり書いたりすることができる。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅰ』の1課を4日で学習する。このクラス（日本語中級Ⅱ、火曜日）は、主として「読む・書く」を扱う。

授業のスケジュールは以下の通り。

1週目：7課
2週目：8課
3週目：9課
4週目：10課
5週目：11課
6週目：12課
7週目：最終試験
8週目：課題学習

全8回（15時間）

*日本語中級ⅠA-ⅣA：週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

最終試験、小テスト・課題、授業活動及び授業参加度

成績評価基準

1. 最終試験 40%
2. 小テスト・課題 40%
3. 授業活動及び授業参加度 20%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語中級ⅠA-ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点171点－220点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語中級ⅠB,ⅢB,ⅣB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中級ⅠB,ⅢB,ⅣB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語中級ⅠA-ⅣA」に続けて受講することが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の朴秀娟に連絡すること。
オフィスアワー：木曜日15時－16時半（国際教育総合センター3階 朴秀娟研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
メールアドレス：sympark [AT]aquamarine.kobe-u.ac.jp
※上記のアドレスの [AT] の部分をアットマーク @（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

日本語の上達のために一番大切なのは、教室の中でも外でも日本語を使うことです。

今年度の工夫

教科書

- 1) 『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』 (スリーエーネットワーク)
- 2) 『みんなの日本語中級Ⅰ 翻訳・文法解説』 (スリーエーネットワーク)

※同書に関しては、英語版をはじめ8カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅰ 本冊』 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883194681

『みんなの日本語 中級Ⅰ 翻訳・文法解説書』 / (※英語版) : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883194926

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中級

開講科目名	日本語中級 IIIB			
担当教員	朴 秀娟	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG063	曜日・時限	木2	時間割コード

授業のテーマ

中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。

授業の到達目標

中級前半レベルの語彙・文法を理解し、適切に使うことができる。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅰ』の1課を4日で学習する。このクラス（日本語中級Ⅲ、木曜日）は、主として「文法（7課・9課・11課）」を扱う。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：7課②
- 2週目：9課①
- 3週目：9課②
- 4週目：11課①
- 5週目：11課②
- 6週目：復習
- 7週目：最終試験
- 8週目：課題学習

全8回（15時間）

*日本語中級ⅠA-ⅣA：週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

最終試験、小テスト・課題、授業活動及び授業参加度

成績評価基準

1. 最終試験 50%
2. 小テスト・課題 30%
3. 授業活動及び授業参加度 20%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語中級ⅠA-ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点171点-220点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語中級ⅠB・ⅡB・ⅣB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中級ⅠB・ⅡB・ⅣB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語中級ⅠA-ⅣA」に続けて受講することが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の朴秀娟に連絡すること。
 オフィスアワー：木曜日15時-16時半（国際教育総合センター3階 朴秀娟研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
 メールアドレス：sympark[AT]aquamarine.kobe-u.ac.jp
 ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク @（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

単語や文法をたくさん勉強して覚えることも大事ですが、どうすればそれを上手に使えるようになるかを意識しながら、学習していきましょう。

今年度の工夫

教科書

- 1) 『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク）
 - 2) 『みんなの日本語中級Ⅰ 翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク）
- 同書に関しては、英語版をはじめ8カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅰ 本冊』 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883194681

『みんなの日本語 中級Ⅰ 翻訳・文法解説書』 / (※英語版) : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883194926

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中級

開講科目名	日本語中級 IVB			
担当教員	齊藤 美穂			開講区分
				第2クォーター
ナンバリングコード	R1IG064	曜日・時限	金2	単位数 0.0単位
時間割コード				
授業のテーマ 中級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。 授業の到達目標 中級前半レベルの語彙・文法を理解し、適切に使うことができる。 授業の概要と計画 月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅰ』の1課を4日で学習する。このクラス（日本語中級Ⅳ、金曜日）は、主として「文法（7課・9課・11課）」を扱う。 授業のスケジュールは以下の通り。 1週目：7課 文法 2週目：9課 文法① 3週目：9課 文法② 4週目：11課 文法① 5週目：11課 文法② 6週目：復習 7週目：試験 8週目：課題学習 全8回（15時間） *日本語中級ⅠA-ⅣA：週4コマ全8週（総時間数60時間） 成績評価方法 試験、課題、授業活動及び授業参加度 成績評価基準 1. 最終試験 40% 2. 課題 30%（予習10%、復習20%） 3. 授業活動及び授業参加度 30% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。 履修上の注意（関連科目情報） 対象者： 「日本語中級ⅠA-ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点171点-220点程度の学習者。 関連科目情報： 1. 連続授業のため、「日本語中級ⅠB-ⅢB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中級ⅠB-ⅢB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。 2. 「日本語中級ⅠA-ⅣA」に続けて受講することが望ましい。 事前・事後学修 1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。 2. 語学習得の効果向上のため復習を推奨する。				

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の朴秀娟に連絡すること。
オフィスアワー：木曜日15時-16時半（国際教育センター3階 朴研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
メールアドレス：syPark [AT]aquamarine.kobe-u.ac.jp
※上記のアドレスの「AT」の部分をアットマーク @（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

授業では語彙の勉強をする時間が十分ないので、授業の前に教科書の語彙リストを必ず見ておいてください。文法項目を勉強する時には、それが実際の生活の中でどのように応用できるか考えるようにしましょう。

今年度の工夫

予習シートを利用します。

教科書

- 1) 『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク）
- 2) 『みんなの日本語中級Ⅰ 翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク）
同書に関しては、英語版をはじめ8カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅰ 本冊』 / : スリーエーネットワーク, 2012年, ISBN:9784883194681

『みんなの日本語 中級Ⅰ 翻訳・文法解説書』（英語版） / : スリーエーネットワーク, 2012年, ISBN:9784883194926

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中級

開講科目名	日本語聴解中級B				
担当教員	大塚 淳子			開講区分	単位数
				第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG050	曜日・時限	水3	時間割コード	
授業のテーマ					
授業のテーマ：中級レベルの聴解能力の育成を図る。					
授業の到達目標					
授業の到達目標： 1.身近な事柄だけでなく、一般的な事柄について、正しい発音・語彙・文法・表現を聴き取ることが出来る。 2.一般的な事柄について、ある程度まとまりのある話が聴き取れる。 3.よく知っているテーマについて、ディスカッションできる。					
授業の概要と計画					
本授業では、教科書の「ウォーミングアップ」で語彙・文法・表現を確認する。CDを聞いて、教科書の内容を学習した後、ディクテーションなどの応用練習を行い、より実践的な聴解能力の向上を図る。 授業のスケジュールは以下の通り。 第1回 アルバイトをさがす、ディクテーション1 第2回 ほめられて、ディクテーション2 第3回 交通手段、ディクテーション3 第4回 ゆずります、ディクテーション4 第5回 マンション、ディクテーション5 第6回 応用練習 第7回 試験 第8回 課題学習 授業内容については、開講後に受講生と相談の上、変更することがある。 週1回 全8週 1科目15時間					
成績評価方法					
成績評価方法： 授業での活動、試験で評価する。					
成績評価基準					
成績評価基準： 1. 授業への参加度（出席、授業中の態度・発言）40% 2. 期末試験 60% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。					
履修上の注意（関連科目情報）					
対象者： 本授業は中級レベルの授業である。日本語聴解初中級Aを履修しているか、J-CAT(オンラインプレースメントテスト)の総合結果が171-220点であることが望ましい。 関連科目情報： 「日本語会話中級B」を同時に履修することが望ましい。 「日本語聴解中級A」を事前に履修することが望ましい。					

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業の前に、教科書の「ウォーミングアップ」をすること。語彙の意味・読み方・文法を必ず調べてくること。授業終了後は、日常生活の中で、授業で習った表現を積極的に使用し、日本語の聴解能力を向上させることが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

rh[AT]gold.kobe-u.ac.jp

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

授業外でも、日本人学生の集まりや、地域のホストファミリープログラムなどに参加し、交流を楽しんで下さい。

今年度の工夫

できるだけ多くの学生と話す機会をもうけます。

教科書

聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 1

日本語生中継：聞いて覚える話し方 初中級編1 / ボイクマン総子他：くろしお出版，2011，ISBN:9784874243398

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中級、聴解

開講科目名	日本語会話中級B				
担当教員	大崎 桂子			開講区分	単位数
				第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG050	曜日・時限	水2	時間割コード	
授業のテーマ					
授業のテーマ：中級レベルの会話能力の育成を図る。					
授業の到達目標					
授業の到達目標： 1.身近な事柄だけでなく、一般的な事柄について、正しい発音・語彙・文法・表現で話すことができる。 2.一般的な事柄について、まとまりのある話ができる。 3.よく知っているテーマについて、ディスカッションできる。					
授業の概要と計画					
本授業では、授業の冒頭、教科書に出てくる語彙・文法・表現を確認し、音読を行う。教科書の内容を学習した後、ペアワーク、グループワークなどの応用練習を行い、より実践的な会話能力の向上を図る。 授業のスケジュールは以下の通り。 第1回 アルバイトをさがす 第2回 ほめられて 第3回 交通手段 第4回 ゆずります 第5回 マンション 第6回 会話作成 第7回 試験 第8回 課題学習 授業内容については、開講後に受講生と相談の上、変更することがある。 週1回全8週 1科目15時間					
成績評価方法					
成績評価方法： 授業での活動、試験で評価する。					
成績評価基準					
成績評価基準： 1. 授業への参加度（出席、授業中の態度・発言）40% 2. 試験 60% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。					
履修上の注意（関連科目情報）					
対象者： 本授業は中級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)171-220点であること。 関連科目情報： 「日本語聴解中級B」を同時に履修することが望ましい。 「日本語会話中級A」を事前に履修することが望ましい。					

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業の前に、教科書附属のCDをよく聞き、語彙の意味・読み方・文法を必ず調べてくること。授業終了後は、日常生活の中で、授業で習った表現を積極的に使用し、日本語の会話能力を向上させることが望まれる。

オフィシアワー・連絡先

keiko_ohsaki3112[AT]yahoo.co.jp

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

授業外でも、日本人学生の集まりや、地域のホストファミリープログラムなどに参加し、交流を楽しんで下さい。

今年度の工夫

できるだけ多くの学生と話す機会をもうけます。

教科書

聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 1

日本語生中継：聞いて覚える話し方 初中級編1 / ボイクマン総子他：くろしお出版，2011，ISBN:9784874243398

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、会話、中級

開講科目名	日本語読解中級B			
担当教員	川嶌 信恵		開講区分	単位数
			第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG050	曜日・時限	木3	時間割コード

授業のテーマ

中級レベルの読解力の育成を図る。

授業の到達目標

1. 優れたエッセイや評論を読む。
2. 読解のための知識と批判的読みの力をつける。

授業の概要と計画

授業のスケジュールは以下の通り。
第1回 コースガイダンス 意見文
第2回 エッセイ(大江健三郎)
第3回 エッセイ(大江健三郎)
第4回 エッセイ(桑原茂夫)
第5回 エッセイ(桑原茂夫)
第6回 新聞記事
第7回 期末試験
第8回 復習

週1回 全8週
1科目15時間

各回の内容は状況によって変更になる可能性もある。

成績評価方法

期末テスト、参加度で評価する。

成績評価基準

1. 参加度 30%
2. 期末試験 70 %
※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF(不可)とする。

履修上の注意(関連科目情報)

対象者：
中級レベルの読解能力を伸ばしたい学生を対象とする。
J-CAT:171-220

関連科目情報：
「日本語作文中級B」を同時に履修することが望ましい。
「日本語読解中級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

授業で単語リストを配布するので、単語の意味を調べる。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

授業で意見を述べるようにしましょう。

今年度の工夫

グループワークを取り入れる。

教科書

必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書・参考資料等

初・中級学習者向け日本語教材 日本文化を読む / (公財)京都日本語教育センター : アルク, 2013, ISBN:9784757422988
日本語総まとめ N2 読解 (「日本語能力試験」対策) / 佐々木 仁子, 松本 紀子 : アスク, 2010, ISBN:9784872177640

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、読解、中級

開講科目名	日本語作文中級B			
担当教員	郷矢 明美	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG050	曜日・時限	火3	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：中級レベルの作文能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 一般的な事柄についてある程度まとまった文章を書くことができる。
2. 事実や意見、感想を述べるために必要な文型、語彙、表現、表記法等を理解し運用することができる。
3. 論理的で読みやすい構成を作って書くことができる。
4. 様々なタイプの文章表現があることを理解し、書くことができる。
5. 読み手を意識したわかりやすい文章を書くことができる。

授業の概要と計画

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 報告文を書く①
- 第2回 報告文を書く②
- 第3回 意見文を書く①
- 第4回 意見文を書く②
- 第5回 説明文を書く①
- 第6回 説明文を書く②
- 第7回 試験
- 第8回 課題学習

週1回 全8週
1科目15時間

各回の内容は状況によって変更になる可能性もある。

成績評価方法

成績評価方法：

授業での活動、毎回の提出物、試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）20%
2. 提出物 40%
3. 試験 40%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は中級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)の結果が171点-220点程度の学習者を対象とする。

関連科目情報：

- 「日本語読解中級B」を同時に履修することが望ましい。
- 「日本語作文中級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業内で書き終わらなかった作文は宿題とする。教師の添削を受けた作文は読み返し、わからないことは質問したり調べたりし、作文力向上に努めることが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

グループで話し合ったり、お互いにコメントしあったりする時間を設ける。

今年度の工夫

インタビュー活動を取り入れる。

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語と英語

キーワード

日本語、作文、中級

開講科目名	日本語漢字・語彙中級B			
担当教員	浅田 恵子		開講区分	単位数
			第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG050	曜日・時限	金3	時間割コード
授業のテーマ				
授業のテーマ：中級レベルの漢字117字程度とそれに関連する語彙を習得する。				
授業の到達目標				
授業の到達目標： 1. 中級レベルの漢字117字程度の読み書きができるようになる。 3. 合計770字程度の漢字と語彙を適切に使うことができる。				
授業の概要と計画				
本授業では、授業の冒頭に前週に学習した漢字のテストを行う。その後、各課の漢字を使った語彙や使用法を学習する。毎回宿題があるので、必ず提出すること。				
授業のスケジュールは以下の通り。 第1回 第8課（毛肌柔軟香溶濯塗諸泥黄屈参衣他蔵凍等担頂） 第2回 第9課（在額込領収械汚殿限責任負袋積燃枝葉埋製容） 第3回 第10課（訓震延断管迷協封各異務更越郊周昨翌軒毒涙） 第4回 第11課（署依頼希望申姓齢勤招祝舞張章誤例詞助副囀） 第5回 第12課（君久追伸皆暮慣健康祈拝伺突然諸職紹介状委） 第6回 第13課（夢域祭査戦争将憎殺恥球恋愛互仲幸福） 第7回 テスト（第8課から13課） 応用練習 第8回 課題学習 週1回 全8週 1科目15時間				
成績評価方法				
成績評価方法： 出席、授業での活動（授業への参加）、宿題の提出、試験（小テスト・期末テスト）で評価する。				
成績評価基準				
成績評価基準： 1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）、出席、宿題 20% 2. 小テスト 20% 3. 期末試験（2回） 60% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。 ※3回遅刻で1回欠席とみなす。				
履修上の注意（関連科目情報）				
対象者： 本授業は中級レベルの授業である。日本語漢字・語彙中級Aを履修しているか、J-CAT(オンラインプレースメントテスト)の総合結果が171-220点であることが望ましい。 関連科目情報： 「日本語漢字・語彙中級A」を事前に履修することが望ましい。				
事前・事後学修				
準備学習・復習： 各回で習った漢字について、次の回までに練習し、覚えておくこと。毎回小テストがあります。 また、宿題もありますので、必ず提出すること。				

オフィスアワー・連絡先

質問がある人は授業の前後にきてください。

学生へのメッセージ

毎週小テストと宿題がありますので、授業以外での自習が必須となります。
授業中は授業での活動に参加してください。

今年度の工夫

日常生活で使える漢字や語彙を多く学習する。

教科書

『例文で学ぶ漢字・語彙3』（配布）

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中級、漢字、語彙

開講科目名	日本語中上級 IB				
担当教員	岡田 亜矢子			開講区分	単位数
				第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG081	曜日・時限	月1	時間割コード	
授業のテーマ 中上級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。					
授業の到達目標 1. 中級後半レベルの語彙・文法を適切に使うことができる。 2. 抽象的あるいは高度に文化的な話題について議論したり文章を書いたりすることができる。					
授業の概要と計画 月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅱ』の1課を4日で学習する。 このクラス（日本語中上級Ⅰ、月曜日）は、主として「読む・書く」を扱う。 授業のスケジュールは以下の通り。 1週目：19課 2週目：20課 3週目：21課 4週目：22課 5週目：23課 6週目：24課 7週目：復習、最終試験 8週目：課題学習 （詳細は授業時に配布されるスケジュールを参照） 各曜日全8回（15時間） *日本語中上級ⅠB－ⅣB：週4コマ全8週（総時間数60時間）					
成績評価方法 最終試験（筆記試験）、各課課題、授業活動及び授業参加度					
成績評価基準 1. 最終試験 40% 2. 各課課題 30% 3. 授業活動及び授業参加度 30% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。					
履修上の注意（関連科目情報） 対象者： 「日本語中上級ⅠA－ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点221点－270点程度の学習者。 関連科目情報： 1. 連続授業のため、「日本語中上級ⅡB, ⅢB, ⅣB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中上級ⅡB, ⅢB, ⅣB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。 2. 「日本語中上級ⅠA－ⅣA」に続けて履修するのが望ましい。					
事前・事後学修 準備学習・復習： 1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。 2. 新出語の意味を調べ、文法解説と読解本文を読んでおくこと。					
オフィスアワー・連絡先 質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の齊藤に連絡すること。 オフィスアワー：火曜日10時半－12時（国際教育総合センター3階 齊藤研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。 メールアドレス：msaito [AT]people.kobe-u.ac.jp ※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先を入力。					

学生へのメッセージ

授業を通して語彙や表現を学び、その量が着実に増えることで、豊かな読みや表現ができるようになっていくでしょう。そのためには主体的に学んでください。

今年度の工夫

--

教科書

- 1) 『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）
- 2) 『みんなの日本語中級Ⅱ 翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク）
同書に関しては、英語版をはじめ7カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883195909

『みんなの日本語 中級Ⅱ 翻訳・文法解説書』 / (※英語版) : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883196142

参考書・参考資料等

--

授業における使用言語

日本語

--

キーワード

日本語、中上級

--

開講科目名	日本語中上級 IIB			
担当教員	内藤 裕美	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG082	曜日・時限	火1	時間割コード

授業のテーマ

中上級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。

授業の到達目標

1. 中級後半レベルの語彙・文法を適切に使うことができる。
2. 抽象的あるいは高度に文化的な話題について議論したり文章を書いたりすることができる。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅱ』の1課を4日で学習する。このクラス（日本語中上級Ⅱ、火曜日）は、主として「話す・聞く」のうち聴解部分を中心に扱う。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：19課
2週目：20課
3週目：21課
4週目：22課
5週目：23課
6週目：24課
7週目：復習、最終試験
8週目：課題学習

（詳細は授業時に配布されるスケジュールを参照）

各曜日全8回（15時間）

*日本語中上級ⅠB－ⅣB：週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

最終試験（または発表ないしレポート）、各課課題、授業活動及び授業参加度

成績評価基準

1. 最終試験 40%
 2. 各課課題 30%
 3. 授業活動及び授業参加度 30%
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語中上級ⅠA－ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点221点－270点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語中上級ⅠB・ⅢB・ⅣB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中上級ⅠB・ⅢB・ⅣB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語中上級ⅠA－ⅣA」に続けて履修するのが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 文法解説書の「話す・聞く」の語彙及び「理解項目」について事前に目を通してること（課題シートを配布）。

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の齊藤に連絡すること。
オフィスアワー：火曜日10時半－12時（国際教育総合センター3階 齊藤研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
メールアドレス：msaito [AT] people.kobe-u.ac.jp
※上記のアドレスの [AT] の部分をアットマーク @（半角）に置き換えた上で宛先を入力。

学生へのメッセージ

この授業では、ペア・ワーク及びグループ・ワークを多く取り入れます。積極的に参加して、普段の日本語運用力の向上へとつなげていきましょう。

今年度の工夫

教科書

- 1) 『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）
 - 2) 『みんなの日本語中級Ⅱ 翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク）
- 同書に関しては、英語版をはじめ7カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』 / : スリーエーネットワーク, 2012年, ISBN:9784883195909

『みんなの日本語 中級Ⅱ 翻訳・文法解説書』 / : スリーエーネットワーク, 2012年, ISBN:9784883196142

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語 英語

開講科目名	日本語中上級 IIIB			
担当教員	朴 秀娟	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG083	曜日・時限	木1	時間割コード

授業のテーマ

中上級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。

授業の到達目標

1. 中級後半レベルの語彙・文法を適切に使うことができる。
2. 抽象的あるいは高度に文化的な話題について議論したり文章を書いたりすることができる。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅱ』の1課を4日で学習する。このクラス（日本語中上級Ⅲ、木曜日）は、主として「話す・聞く」の「話す」練習を扱う。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 1週目：19課
2週目：20課
3週目：21課
4週目：22課
5週目：23課
6週目：24課
7週目：復習、最終試験
8週目：課題学習

各曜日全8回（15時間）

*日本語中上級ⅠB-ⅣB：週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

最終試験、各課課題、授業活動及び授業参加度

成績評価基準

1. 最終試験 40%
2. 各課課題 30%
3. 授業活動及び授業参加度 30%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語中上級ⅠA-ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点221点-270点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語中上級ⅠB、ⅡB、ⅣB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中上級ⅠB、ⅡB、ⅣB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語中上級ⅠA-ⅣA」に続けて履修するのが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 授業に来る前に予習ワークシートを完成させてくること（ワークシートは授業時に配布）。

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の齊藤に連絡すること。
オフィスアワー：火曜日10時半－12時（国際教育総合センター3階 齊藤研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
メールアドレス：msaito[AT]people.kobe-u.ac.jp
※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先を入力。

学生へのメッセージ

この授業では、ペアワーク及びグループワークを多く取り入れます。積極的に参加して、普段の日本語運用力の向上へとつなげていきましょう。

今年度の工夫

教科書

- 1) 『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）
- 2) 『みんなの日本語中級Ⅱ 翻訳・文法解説』（スリーエーネットワーク）
同書に関しては、英語版をはじめ7カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』 / : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883195909

『みんなの日本語 中級Ⅱ 翻訳・文法解説書』 / （※英語版） : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883196142

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中上級

開講科目名	日本語中上級 IVB			
担当教員	齊藤 美穂	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG084	曜日・時限	金1	時間割コード

授業のテーマ

中上級レベルの日本語（4技能）を総合的に身につける。

授業の到達目標

1. 中級後半レベルの語彙・文法を適切に使うことができる。
2. 抽象的あるいは高度に文化的な話題について議論したり文章を書いたりすることができる。

授業の概要と計画

月・火・木・金曜日の連続授業である。テキスト『みんなの日本語中級Ⅱ』の1課を4日で学習する。
このクラス（日本語中上級Ⅰ、月曜日）は、主として「文法・練習」を扱う。

授業のスケジュールは以下の通り。

1週目：20課
2週目：21課
3週目：22課
4週目：23課
5週目：24課
6週目：復習
7週目：復習、試験
8週目：課題学習
各曜日全8回（15時間）
*日本語中上級ⅠB－IVB：週4コマ全8週（総時間数60時間）

成績評価方法

最終試験、各課題、授業活動及び授業参加度

成績評価基準

1. 期末試験 40%
 2. 各課題 30%
 3. 授業活動及び授業参加度 30%
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。連続授業のため、毎週少なくとも2回から3回は履修するのが望ましい。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

「日本語中上級ⅠA－ⅣA」を終了した、あるいはJ-CAT得点221点-270点程度の学習者。

関連科目情報：

1. 連続授業のため、「日本語中上級ⅠB－ⅢB」と併せて受講することが望ましい。「日本語中上級ⅠB－ⅢB」が受講できない場合は、スケジュールをもとに、不足分を自習により補っておくこと。
2. 「日本語中上級ⅠA－ⅣA」に続けて履修するのが望ましい。

事前・事後学修

1. 教科書及び文法解説書を各自で用意すること。
2. 予習・復習用に与えられた課題に取り組むこと。習ったことをもとに、自分で書いた作文などを見直すこと。

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、このクラスについて相談が必要な場合は、主任の齊藤に連絡すること。
オフィスアワー：火曜日10時半－12時（国際教育総合センター3階 齊藤研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
メールアドレス：msaito [AT] people.kobe-u.ac.jp
※上記のアドレスの[AT]の部分のアットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先を入力。

学生へのメッセージ

この授業を通して、文法項目を学ぶと同時に、みなさんの日本語の文法に対する意識を高めてほしいと思っています。新しい日本語の表現に出会ったら、どうやって使うかふだんから考えるようにしてください。

今年度の工夫

神戸大学の学習管理システムBEEFを使って自習用の資料を提供します。

教科書

1) 『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』 (スリーエーネットワーク)

2) 『みんなの日本語中級Ⅱ 翻訳・文法解説』 (スリーエーネットワーク)

同書に関しては、英語版をはじめ7カ国語版があります。それぞれにあった言語での表記を選んでください。

『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』 / スリーエーネットワーク : スリーエーネットワーク, 2012年, ISBN:9784883195909

『みんなの日本語 中級Ⅱ 翻訳・文法解説書』 / スリーエーネットワーク : スリーエーネットワーク, 2012年, ISBN:9784883196142

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中上級

開講科目名	日本語聴解中上級B			
担当教員	大塚 淳子	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG070	曜日・時限	水4	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：中上級レベルの聴解能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 物事について、順序立てた話や解説を聴きとることができる。
2. 社会的、文化的な内容について、まとまりのある話を聞き取ったり、発表したりすることができる。
3. 時事問題等について、ディスカッションすることが出来る。

授業の概要と計画

CDを聞いて質問に答え、話し合う。

授業のスケジュールは以下の通り。（スケジュールは変更することもある）

- 第1回 落語
- 第2回 卵かけご飯
- 第3回 将棋
- 第4回 プレゼント
- 第5回 南極
- 第6回 明治神宮
- 第7回 試験
- 第8回 課題学習

週1回 全8週

1科目15時間

成績評価方法

成績評価方法：

授業での活動、試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）50%
2. 期末試験 50%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は中上級レベルの授業である。日本語聴解初中上級Aを履修しているか、J-CAT(オンラインプレースメントテスト)の総合結果が221-270点であることが望ましい。

関連科目情報：

- 「日本語会話中上級B」を同時に履修することが望ましい。
- 「日本語聴解中上級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

復習を必ず行い、語彙や表現を覚えること。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

ニュースを積極的に聞くことが望まれる。

今年度の工夫

授業内容は学生の希望も参考にする。

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中上級、聴解

開講科目名	日本語会話中上級B			
担当教員	Harrison Richard	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG070	曜日・時限	火4	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：中上級レベルの会話能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 物事について、順序立てた話したり、解説したりすることができる。
2. 社会的、文化的な内容について、まとまりのある話をしたり、発表したりすることができる。
3. 時事問題等について、ディスカッションすることが出来る。

授業の概要と計画

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 トピック 1
- 第2回 トピック 1
- 第3回 トピック 1
- 第4回 インタビューテスト
- 第5回 トピック 2
- 第6回 トピック 2
- 第7回 期末試験
- 第8回 課題学習

全 8回（15時間）

成績評価方法

成績評価方法：

授業での活動、試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）50%
2. 試験 50%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は上級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)271-330点であること。

関連科目情報：

- 「日本語聴解中上級B」を同時に履修することが望ましい。
- 「日本語会話中上級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：クラスでディスカッションできるように生教材（ビデオなど）を準備する

オフィスアワー・連絡先

火曜日 12:30-14:00

事前連絡要

harrison (AT) kobe-u.ac.jp 078-803-5275

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

この授業で生教材を中心に聞き取りの練習し、他の学生とのディスカッションで口頭運用能力を高めます。

今年度の工夫

Moodleを導入することによって、学生の情報共有を促進する

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

中上級会話

開講科目名	日本語読解中上級B			
担当教員	宮本 洋子	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG070	曜日・時限	木3	時間割コード
授業のテーマ				
授業のテーマ：中上級レベルの読解能力の育成を図る。				
授業の到達目標				
授業の到達目標： 1. エッセイ、小説などの様々なタイプの文章を読み、理解することができる。 2. 読解ストラテジーを使って、文章を早く的確に理解できる。 3. 文章を読むために必要な文型、語彙、表現、表記法等が理解できる。				
授業の概要と計画				
授業のスケジュールは以下の通り。 第1-3回 エッセイ 第4-6回 小説 第7回 試験 第8回 課題学習 週1回 全8週 1科目15時間				
成績評価方法				
成績評価方法： 授業での活動、毎回の提出物、試験で評価する。				
成績評価基準				
成績評価基準： 1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）20% 2. 提出物 30% 3. 試験 50% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。				
履修上の注意（関連科目情報）				
対象者： 本授業は中上級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)の結果が221点-270点程度の学習者を対象とする。				
事前・事後学修				
準備学習・復習： 宿題（語彙調べ）は必ずやってくる。授業終了後は、授業で学習したストラテジーや言語知識を積極的に使用し、日本語の読解能力を向上させることが望まれる。 関連科目情報： 「日本語作文中上級B」を同時に履修することが望ましい。 「日本語読解中上級A」を事前に履修することが望ましい。				

オフィスアワー・連絡先

--

学生へのメッセージ

授業外でも興味を持ったさまざまな文章を読んでみましょう。

--

今年度の工夫

ピア学習を取り入れる。

--

教科書

ハンドアウト

--

参考書・参考資料等

三上京子・山形美保子・青木俊憲・和栗雅子2010『改訂版 読むトレーニング 応用編 日本留学試験対応』（978-4-88319-544-2）

『改訂版 読むトレーニング 応用編 日本留学試験対応』 / 三上京子・山形美保子・青木俊憲・和栗雅子：スリーエーネットワーク，2010，ISBN:9784883195442

--

授業における使用言語

日本語

--

キーワード

日本語、読解、中上級

--

開講科目名	日本語作文中上級B			
担当教員	伊藤 智博	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG070	曜日・時限	火3	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ
中上級レベルの作文能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標
抽象的・文化的で高度な事柄について、論理的な構成を持つまとまった文章が書けるようになる。

授業の概要と計画

授業のスケジュールは以下の通り。
第1回：「調査の書き方」をテーマにした文章1
第2回：「調査の書き方」をテーマにした文章2
第3回：「調査の書き方」をテーマにした文章3
第4回：「整理と提案」をテーマにした文章1
第5回：「整理と提案」をテーマにした文章2
第6回：「整理と提案」をテーマにした文章3
第7回 試験
第8回 課題学習

週1回 全8週
1科目15時間

成績評価方法

成績評価方法：
授業での活動、毎回の提出物、試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：
1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）：20%
2. 提出物（各課の課題）：50%
3. 期末試験：30%
※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：
本授業は中上級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)の結果が221点から270点程度の学習者を対象とする。

事前・事後学修

準備学習・復習：
授業内で書き終わらなかった作文は宿題とする。教師の添削を受けた作文は読み返し、わからないことは質問したり調べたりし、作文力向上に努めることが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

クラス内で質問すること。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

日本語の作文技術一中・上級 / 倉八順子 : 古今書院 ,2000 ,ISBN:4772213546
大学・大学院 留学生の日本語 ④論文作成編 / アカデミック・ジャパニーズ研究会 : アルク ,2002 ,ISBN:4757405243

授業における使用言語

日本語と英語

キーワード

日本語、作文、中上級

開講科目名	日本語漢字・語彙中上級B				
担当教員	大崎 桂子			開講区分	単位数
				第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG070	曜日・時限	水3	時間割コード	
授業のテーマ					
授業のテーマ：中上級レベルの漢字150字程度とそれに関連する語彙を習得する。					
授業の到達目標					
1. 中上級レベルの漢字150字程度の読み書きができるようになる。 2. 合計950字程度の漢字と語彙を適切に使うことができる。					
授業の概要と計画					
本授業では、授業の冒頭、前週に学習した漢字の小テストを実施する。その後、教科書に出てくる漢字・語彙と文例などを学習する。文例は学習者からの発表も求める。					
授業のスケジュールは以下の通り。 但し、受講者のニーズ等によっては変更する可能性がある。 第1回 テキスト第8回導入 第2回 テキスト第8回小テスト・第9回導入 第3回 テキスト第9回小テスト・第10回導入 第4回 テキスト第10回小テスト・第11回導入 第5回 テキスト第11回小テスト・第12回導入 第6回 テキスト第12回小テスト・第13回・14回導入 第7回 テキスト第8回-第14回 期末テスト・講評 第8回 課題学習 週1回 全8週 1科目15時間					
成績評価方法					
成績評価方法： 授業での活動、試験で評価する。					
成績評価基準					
1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）20% 2. 小テスト30% 3. 期末試験 50% ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。					
履修上の注意（関連科目情報）					
対象者： 本授業は中上級レベルの授業である。漢字・語彙Ⅲまたは日本語漢字・語彙中級Bを履修しているか、J-CAT(オンラインプレースメントテスト)の総合結果が221-270点であることが望ましい。					
関連科目情報： 「日本語漢字・語彙中上級A」を事前に履修することが望ましい。					

事前・事後学修

各回で習った漢字について、次の回までに練習し、覚えておくこと。
翌週に確認テストを実施する。

オフィスアワー・連絡先

keiko_ohsaki3112[AT]yahoo.co.jp

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

各回で習った漢字について、次の回までに練習し、覚えておくこと。

今年度の工夫

様々な例文を通じて、新しい漢字の習得を助ける。

教科書

『例文で学ぶ漢字・語彙4』（配布）

中上級漢字教材『例文で学ぶ漢字・語彙④』 / : 神戸大学留学生センター , 2013 , ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、中上級、漢字、語彙

開講科目名	日本語特別演習 IB（JLPT N1対策）			
担当教員	川島 信恵	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG070	曜日・時限	木4	時間割コード
授業のテーマ				
授業のテーマ：日本語能力試験N 1 対策				
授業の到達目標				
1. 日本語能力試験N 1 合格に必要な能力をつける。 2. 言語知識(文字、語彙、文法)、読解、聴解の能力を伸ばす。				
授業の概要と計画				
授業のスケジュールは以下の通り。 第1回 コースガイダンス 第2回 言語知識(文字・語彙・文法) 第3回 読解 第4回 聴解 第5回 言語知識(文字・語彙・文法) 第6回 読解 第7回 試験 第8回 復習 週1回 全8週 1科目15時間 各回の内容は状況によって変更になる可能性もある。				
成績評価方法				
成績評価方法： 小テスト、期末テスト、参加度で評価する。				
成績評価基準				
成績評価基準： 1. 小テスト 20 % 2. 参加度 10 % 3. 期末試験 70 % ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。				
履修上の注意（関連科目情報）				
対象者： 日本語能力試験N 1 の受験勉強をしたい学生を対象とする。 関連科目情報：				
事前・事後学修				
準備学習・復習： 授業中に指示する				

オフィスアワー・連絡先

--

学生へのメッセージ

授業で意見を述べるようにしましょう。

--

今年度の工夫

--

教科書

必要に応じてハンドアウトを配布する。

--

参考書・参考資料等

--

授業における使用言語

日本語

--

キーワード

日本語、日本語能力試験

--

開講科目名	日本語会話上級B			
担当教員	岡田 亜矢子	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG090	曜日・時限	金2	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：上級レベルの会話能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 専門性・時事性の高いテーマについて解説したり、論理的に意見を述べたりすることができる。
2. 専門性・時事性の高いテーマについて、発表したり、ディスカッションしたりすることができる。

授業の概要と計画

前半は社会や文化に関するCDを聞き、小グループでディスカッションを行う。
後半は、前半に扱ったテーマを各自がさらに調べ、発表をする。授業内容については変更する場合もある。

授業のスケジュールは以下のとおり

- 第1回 文化のはざままで
- 第2回 地域
- 第3回 教育（2）
- 第4回 まとめ、発表の仕方
- 第5回 発表1
- 第6回 発表2
- 第7回 発表3
- 第8回 課題学習

週1回全8週
1科目15時間

成績評価方法

成績評価方法：

授業での活動、期末試験（発表）で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）50%
2. 期末試験（発表）50%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は上級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)271-320点であること。

関連科目情報：

- 「日本語聴解上級B」を同時に履修することが望ましい。
- 「日本語会話上級A」を事前に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

文化や社会など様々なニュースを聞くことが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

日常生活において、社会問題や文化についても興味を持つようにしてください。

今年度の工夫

授業の内容は、学生の希望も参考にする

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

Voices from Japan ありのままの日本を知る

Voices from Japan ありのままの日本を知る / 永田由利子 : くろしお出版, 2009, ISBN:9784874244531

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、会話、上級

開講科目名	日本語特別演習 VB（ビジネス日本語）			
担当教員	河合 成雄		開講区分	単位数
			第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG090	曜日・時限	金1	時間割コード
授業のテーマ				
ビジネスで使う日本語を習得する				
授業の到達目標				
ビジネスで使う日本語について学習する。レベル的にも第1クォーターよりも引き上げながら、メールのやりとりを習得する。				
授業の概要と計画				
第2クォーターでは、メールのやりとりを中心として書くスキルの向上を目指す。毎回、ウォームアップとして語彙の問題をする。また適宜、聞きとりやロールプレイを行う。 第1回 メールのやりとりについてのイントロダクション 第2回 メールのやりとり基礎編 1 第3回 メールのやりとり基礎編 2 第4回 メールのやりとり応用編 1 第5回 メールのやりとり応用編 1 第6回 社内の会話、総復習 第7回 期末試験 第8回 フィードバック 週1回全8週15時間				
成績評価方法				
授業中でのパフォーマンス（発表やロールプレイ）と期末試験。				
成績評価基準				
授業中でのパフォーマンス、（発表やメール）（50％）と期末試験（50％）。 ※出席率70％以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。				
履修上の注意（関連科目情報）				
対象者： 本授業は上級レベルの授業である。オンラインプレイスメントテストの総合結果が271点以上であること。				
事前・事後学修				
毎回基本的な語彙について予習しておくこと。テーマに沿ってメールを提出してもらいます。				
オフィスアワー・連絡先				
留学生相談室（月曜日、2時間目）、その他の時間帯は適宜メールでアポをとってください。 nkawai(at)kobe-u.ac.jp ※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。				
学生へのメッセージ				
就職を考える学生だけでなく、フォーマルな日本語を学びたい学生も歓迎します。				
今年度の工夫				
表現を身につけるためロールプレイを使います。 メールの書き方では、全員で添削をします。				
教科書				
授業時にプリントを配布				

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語
日本語

キーワード

ビジネス日本語 Eメール

開講科目名	異文化コミュニケーション演習B			
担当教員	黒田 千晴	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.0単位
ナンバリングコード	R1IG090	曜日・時限	月4	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：

本授業では、異文化間コミュニケーションの根幹を成す、「文化」や文化に根差す価値観、行動規範を学ぶことにより、それらの知識を生かして、異なる文化的・言語的背景を持つ人々とのコミュニケーション能力の向上を図ることを目指す。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 「文化」について、文化の島モデル、冰山モデル、玉ねぎモデルなどをもとに、「見える文化」と「見えない文化」の繋がりについて学ぶ。
2. 文化に根差す様々な価値観・行動規範について多様な視点から学ぶ。
3. 日本語でのディスカッション・プレゼンテーションの能力を向上させる。
4. ミニレポートを書くことにより、日本語のアカデミックライティングの能力を向上させる。

授業の概要と計画

本授業では、授業の冒頭で、トピックを紹介する読解教材を用いて、語彙・文法・表現の確認を行う。続いて、小グループに分かれてのディスカッションを行い、グループで話し合った内容を発表し、クラス全体でのディスカッションを行う。授業終了後に、ミニレポートの提出を課す。

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 イントロダクション・文化とは何か？文化の島モデル・冰山モデル・玉ねぎモデル
- 第2回 「見える文化」と「見えない文化」のつながりについて学ぶ
- 第3回 「価値観」「行動規範」について考える：教育と文化-1
- 第4回 「価値観」「行動規範」について考える：教育と文化-2
- 第5回 「価値観」「行動規範」について考える：仕事観・職業観と文化
- 第6回 「価値観」「行動規範」について考える：家族観・結婚観と文化
- 第7回 最終発表
- 第8回 最終試験

週1回全8週

1科目15時間

成績評価方法

成績評価方法：

授業への参加度（発言・態度）、ミニレポート、最終発表、最終試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（発言・態度）40%
2. ミニレポート 30%
3. 最終発表 15%
4. 最終試験 15%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は上級レベルの授業である。オンラインプレイスメントテストの総合結果が271-320点であると。

関連科目情報：

異文化コミュニケーション演習Aを同時に履修することが望ましい。

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業の前に、読解教材をよく読み、語彙の意味・読み方を必ず調べてくること。授業の復習として、ミニレポートの課題を出すので、必ず提出すること。

オフィスアワー・連絡先

木曜日 15:00-16:30（事前連絡要）

kuroda[AT]port.kobe-u.ac.jp 078-803-5296

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

学生の皆さんが、本授業で学んだことを生かして、日本人を含め、多様な文化的・言語的背景を持つ人々と日本語で積極的にコミュニケーションを取ることを期待します。授業外でも、日本人学生の集まりや、地域のホストファミリープログラムなどに参加し、交流を楽しんで下さい。

今年度の工夫

ビデオクリップなどのビジュアル教材を導入します。

教科書

読解教材（ハンドアウト）は、初回授業時に配布する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

異文化コミュニケーション、日本語、上級

開講科目名	日本語I B			
担当教員	川上 尚恵	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.5単位
ナンバリングコード	R1JJ190	曜日・時限	水2	時間割コード

授業のテーマ

上級レベルの作文能力の育成を図り、学術的な文章作成のための基本的な作文技術を身につける。

授業の到達目標

1. 学術的な文章にふさわしい文体や表現を運用できる。
2. 基本的な論文の構成や書式、及び守るべきルールを理解できる。
3. やや専門的あるいは学術的なテーマについて、序論・本論・結論から成る論理的な文章を作成できる。

授業の概要と計画

日本語の文体の使い分けと、学術的な文章によく使われる語彙や表現を実践を通して学ぶ。
授業の概要は以下の通り。

1. 学術的な文章のスタイル
2. 序論：背景・先行研究・目的
3. 本論：データ提示①
4. 本論：データ提示②
5. 本論：結論提示
6. 結論
7. まとめ
8. 課題学習

全8回（15時間）

成績評価方法

授業への参加度（出席と参加態度）、課題、レポートの3つの観点から総合的に評価をする。

成績評価基準

1. 授業への参加度（出席と参加態度） 40%
 2. 課題 30%
 3. レポート 30%
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：
本授業は上級レベルの日本語科目である。履修希望者は、中上級レベルの学習を終えているか、J-CATの合計得点が271-320点であること。

関連科目情報：
・日本語Ⅱ、Ⅳ
・日本語ⅠAに続けて履修するのが望ましい。

事前・事後学修

1. 授業で出された宿題はしめること。
2. 授業中の指示に従って作文をすること。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは水曜日9:00-10:30（国際教育総合センター3階川上研究室）。これ以外の時間は事前に予約をとること。
メールアドレス：Kawakami [AT]sapphire.kobe-u.ac.jp
※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

学術的な文章を書くためには、読んでその形式を知ることも必要です。自分の関心のある分野の論文などを読んでみてください。

今年度の工夫

BEEF（学習管理システム）を使って、課題の提出や受講生とのインターアクションを行う。

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

『大学生と留学生のための論文ワークブック』
『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』

『大学生と留学生のための論文ワークブック』 / 浜田 麻里・平尾 得子・由井 紀久子 : くろしお出版, 1997, ISBN: 978-4874241271

『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』 / 鎌田 美千子・仁科 浩美 : スリーエーネットワーク, 2014, ISBN: 978-4883196814

授業における使用言語

日本語
日本語

キーワード

日本語、上級、作文

開講科目名	日本語II B			
担当教員	齊藤 美穂	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.5単位
ナンバリングコード	R1JJ190	曜日・時限	月3	時間割コード

授業のテーマ

上級日本語の文法

授業の到達目標

専門分野の学習・研究に日本語で対応できる。

授業の概要と計画

日本語の文法についての理解を深めることにより、より高度で正確な日本語の運用能力を身につける。専門分野の学習・研究に対応できる運用能力を養成する。

主な授業活動

1) 対象となる文法項目に関する講義

2) 練習

3) 「テキスト再現」(ディクトグロス)・・・聴解、語彙、文法、作文の総合的な練習

授業のスケジュールは以下の通り。

1回目：ヴォイスと関連カテゴリー①

2回目：ヴォイスと関連カテゴリー②

3回目：ヴォイスと関連カテゴリー③

4回目：アスペクトと関連カテゴリー①

5回目：アスペクトと関連カテゴリー②

6回目：アスペクトと関連カテゴリー③

7回目：テスト、フィードバック

8回目：課題学習

*スケジュールは参加者のニーズに応じて変更することがあります。

全8回（15時間）

成績評価方法

試験、課題、授業活動及び授業参加度

成績評価基準

1. 試験 40%

2. 課題 30%

3. 授業活動及び授業参加度 30%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

J-CAT得点271点－320点程度の学習者。

関連科目：

日本語Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ

事前・事後学修

予習・復習用に与えられた課題に取り組むこと。習ったことをもとに、自分で書いた作文などを見直すこと。

オフィスアワー・連絡先

質問はなるべくクラス内ですること。その他、相談が必要な場合は、齊藤に連絡すること。
オフィスアワー：火曜日10時半－12時（国際教育総合センター3階 齊藤研究室）。
メールアドレス：masito[AT]people.kobe-u.ac.jp
※上記のアドレスの「AT」の部分をアットマーク @（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

文法を「知る」だけでなく、「使える」になることを目指しましょう。

今年度の工夫

上級学習者になっても難しいと思われる文法項目を中心に扱います。

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身－ボイス / 安藤節子、小川誉子美：スリーエーネットワーク，2001，ISBN:978-4883191925

日本語文法演習 時間を表す表現－テンス・アスペクト－改訂版 / 庵功雄、清水佳子：スリーエーネットワーク，2016，ISBN:978-4883197262

現代日本語文法3 アスペクト・テンス・肯否 / 日本語記述文法研究会：くろしお出版，2007，ISBN:978-4874243855

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、上級、文法

開講科目名	日本語IIIB			
担当教員	Harrison Richard			開講区分
				第2クォーター
ナンバリングコード	R1JJ190	曜日・時限	木3	単位数 0.5単位
時間割コード				

授業のテーマ

授業のテーマ：上級レベルの会話能力の育成を図る。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 抽象的・文化的な事柄についての高度な生の日本語を聞いたり、それについて話したりできる。
2. 抽象的・文化的な事柄について発表したり、ディスカッションしたりすることができる。

授業の概要と計画

授業のスケジュールは以下の通り。

- 第1回 トピック 1
- 第2回 トピック 1
- 第3回 トピック 1
- 第4回 中間テスト
- 第5回 トピック 2
- 第6回 トピック 2
- 第7回 期末試験
- 第8回 課題学習

全 8回（15時間）

成績評価方法

成績評価方法：

授業での活動、試験で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：

1. 授業への参加度（授業中の態度・発言）50%
2. 期末試験 50%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は上級レベルの授業である。J-CAT(オンラインプレイスメントテスト)271-330点であること。

事前・事後学修

準備学習・復習：クラスでディスカッションできるように生教材（ビデオなど）を準備する

オフィスアワー・連絡先

火曜日 12:30-14:00

事前連絡要

harrison (AT) kobe-u.ac.jp 078-803-5275

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

この授業で生教材を中心に聞き取りの練習し、他の学生とのディスカッションで口頭運用能力を高めます。

今年度の工夫

Moodleを導入することによって、学生の情報共有を促進する

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

上級会話

開講科目名	日本語IVB			
担当教員	朴 秀娟	開講区分		単位数
		第2クォーター		0.5単位
ナンバリングコード	R1JJ190	曜日・時限	火3	時間割コード

授業のテーマ

上級レベルの読解力の育成を図る。

授業の到達目標

1. 上級レベルの読解に必要な語彙、文型、表現等を理解することができる。
2. 様々な種類の高度な長い文章を読み、主要点のみならず、背後に含意されている点まで理解することができる。
3. 文章を速く、かつ正確に理解するための読解ストラテジーを使って、文章を読むことができる。

授業の概要と計画

本授業では、1Qに引き続き、上級レベルの読解に必要な力を養っていく。2Qでは、「エッセイ」と「社説」という、専門的な内容も含んだ読み物を通して、より高度な読解力を身につけていく。授業計画は以下のとおり。

- 1回目 エッセイを読む（1）
- 2回目 エッセイを読む（2）
- 3回目 エッセイを読む（3）
- 4回目 テスト（1）、論説文を読む（1）
- 5回目 論説文を読む（2）
- 6回目 論説文を読む（3）
- 7回目 テスト（2）、プレゼンテーション（1）
- 8回目 プレゼンテーション（2）

全8回（15時間）

成績評価方法

課題、テスト、授業参加度

成績評価基準

1. 課題
 - 1) プレゼンテーション 30%
 - 2) 振り返りレポート 10%
2. テスト：40%
3. 授業参加度：20%

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・本授業は上級レベルの日本語科目である。履修希望者は、中上級レベルの学習を終えているか、J-CATの合計得点が271-320点であること。
- ・日本語IVAを同時に履修することが望ましい。

事前・事後学修

2回目から5回目にかけて行われる「読む」活動については、事前学習（単語（漢字）の読み方、意味の確認など）が必要である（前の回に読み物を配布）。

オフィスアワー・連絡先

木曜日 15:00-16:00（事前連絡要）

E-mail:sypark[AT]aquamarine.kobe-u.ac.jp

※上記のアドレスの[AT]の部分をアットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

「日本語を読む」、「日本語で読む」習慣が身につくような授業にしていきたいと思っています。

今年度の工夫

グループワークなどを取り入れた相互学習

教科書

プリントを配布

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語、上級、読解

開講科目名	日本事情I B			
担当教員	實平 雅夫		開講区分	単位数
			第2クォーター	0.5単位
ナンバリングコード	R1JJ190	曜日・時限	火2	時間割コード

授業のテーマ

授業のテーマ：日本文化と日本社会

授業の到達目標

日本文化と日本社会について画一的なものの見方を相対化できる。

授業の概要と計画

日本事情Iで得た基本的な知識を基礎として、現代日本の社会の仕組み、および、その成り立ちの考察を行うと共に、専門分野の学習・研究への適応能力の養成を図る。

戦後急激に変化を遂げた日本社会の中に潜在化している様々な問題点を観察・認識し、理解すると共に、国際社会において将来あるべき日本の姿を模索し、考察する。

授業のスケジュールは以下の通り。

第1回 トピックを探す、調査方法

第2回 調査、資料作成1

第3回 リハーサル、フィードバック

第4回 プレゼンテーション1

第5回 プレゼンテーション2

第6回 プレゼンテーション3

第7回 試験及びフィードバック

第8回 課題学習

週1回 全8週

1科目15時間

成績評価方法

試験、参加度で評価する。

成績評価基準

試験 80%

参加度 20%

※出席率70%以上で評価の対象とする。

履修上の注意（関連科目情報）

本授業は上級レベルの日本語科目である。履修希望者は、中上級レベルの学習を終えているか、J-CATの合計得点が271-320点であること。

事前・事後学修

各課の語彙の予習が求められる（プリントを配布）。また、復習として、課末問題シートが課される。

オフィスアワー・連絡先

火曜日 12:30-14:00（事前連絡要）

sanehira[AT]port.kobe-u.ac.jp 078-803-5276

※上記のアドレスの[AT]の部分を実アットマーク@（半角）に置き換えた上で、宛先に入力。

学生へのメッセージ

授業外でも、日本人学生の集まりや、地域のホストファミリープログラムなどに参加し、交流を楽しんで下さい。

今年度の工夫

日本人学生との協働学習の機会を設けます。

教科書

ハンドアウト

参考書・参考資料等

改訂版 トピックによる日本語総合演習 一テーマ探しから発表へー 上級 / 専修大学国際交流センター 監修 安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・坂本まり子・田口典子 編著 : スリーエーネットワーク , , ISBN:9784883195237

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本事情、上級、日本語